

小児専門の3次救急が始動

あいち小児保健医療総合センター

愛知県大府市にある「あいち小児保健医療総合センター」(服部義センター長)は今年2月、24時間体制で

重篤な小児患者に対応する救急棟を増設し、小児専門の3次救急医療を本格的に開始。これにより県は3月、



拡充された小児集中治療室を視察する党愛知県議団(右側)

重篤患者に24時間対応 医師増員し集中治療室も16床に

同センターを東海3県で初の小児救命救急センターに指定し、小児救急の中核拠点として運用を始めた。小児専門医療の充実を推進してきた公明党愛知県議団はこのほど、同センターを訪れ、関係者から話を聞いた。

3次救急医療は、不慮の事故など、命に危険が及ぶ重篤な患者に対応し、集中治療室(ICU)などで専門的な治療を行う。中でも、幼い子どもの3次救急医療は、麻酔など手術の方法が大人と異なるため、小児集中治療室(PICU)で、小児専門の集中治療医や救急医が対応することが望ましい。しかし、小児専門の集中治療医や救急医は育成が難しく、貴重な存在となっている。そのため、同センターのように6床以上のPICUを備え、24時間体制で患者を受け入れること

愛知県

ができる施設は全国でも数少ない。

新たに小児救命救急センターに指定された「あいち小児保健医療総合センター」は、保健部門と医療部門を併せ持つ小児医療の専門施設。救急棟の増設により、PICUを8床から16床、手術室を4床から7床に拡充するとともに、小児専門の集中治療医や救急医も増員した。

さらに、屋上にはヘリポートを設置。24時間365日、ドクターヘリが離発着でき、いつでも県内外からの重篤な小児患者の受け入れが可能になった。

公明、体制づくりに尽力

党県議団はこれまで、議会質問などを通じ、同センターの診療内容や施設の拡充を推進。同センターにおける3次救急医療の提供についても県議会健康福祉委員会でも取り上げ、医療施設だけでなく利用者に配慮した駐車場の整備を要請するなど、機能の充実も訴えてきた。

この日、党県議団は服部

また、同センターは子どもが安心して療養生活が送れるよう、医療スタッフが白衣を着ないことや、院内の廊下や医療機器に動物などのイラストを描くなど、さまざまな工夫も凝らしている。

今年度中には、新生児集中治療室(NICU)などを備えた周産期部門を開設し、生まれる前の胎児に異常が発見された場合、迅速に対応できる医療体制も構築する予定。

センター長らから施設の概要や利用状況について説明を受けた後、PICUやヘリポートを視察した。

県議団のメンバーは「子どもの命を守る3次救急医療の中核拠点として、万全の医療体制が確立できるよう、必要な医療スタッフの確保や機能充実を力注いでいきたい」と話していた。